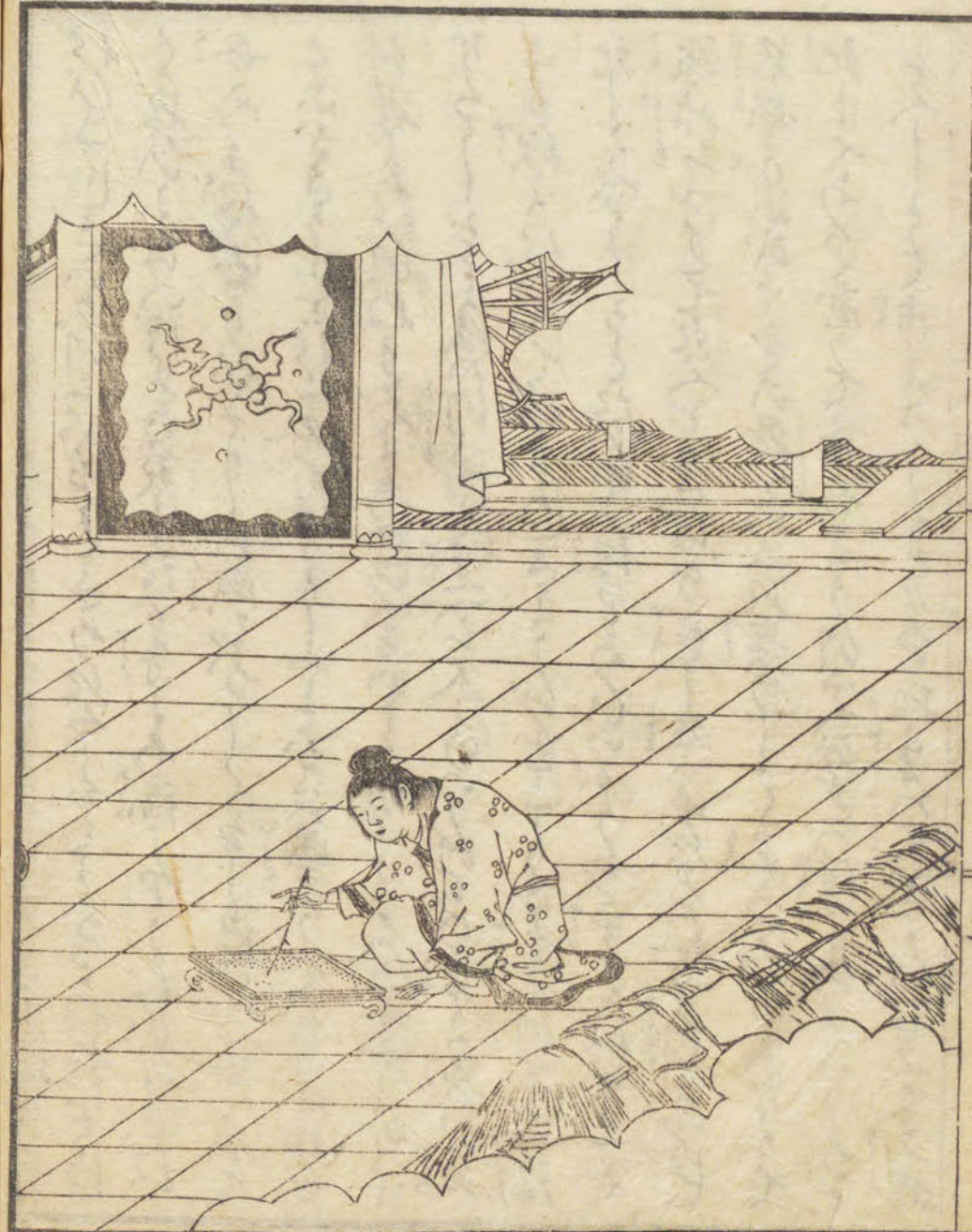
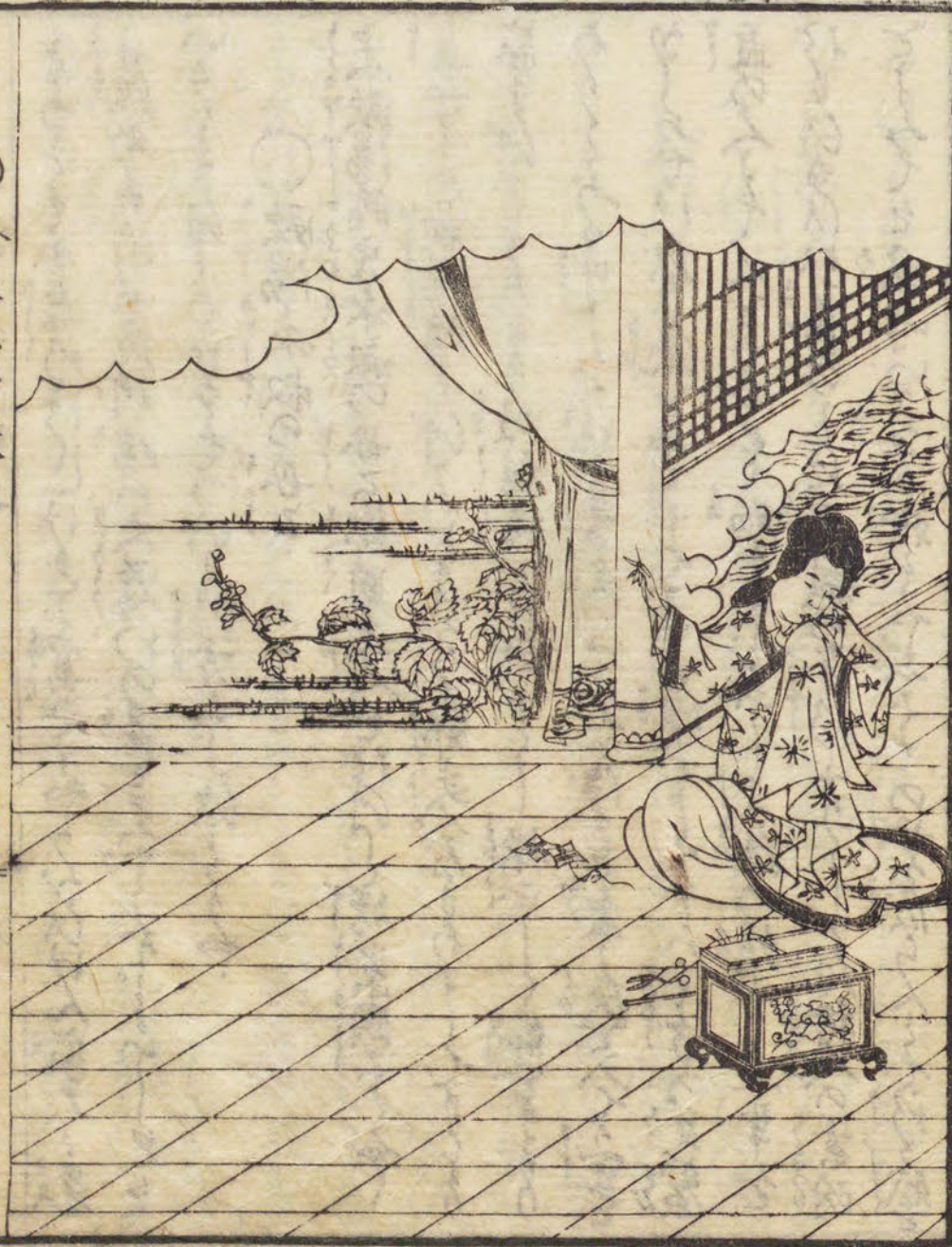




○ 歐陽永叔の母

宋歐陽脩字永叔の母曰鄭國夫人と名付て甥崇國公とて
 之を以て歐陽脩といふに父を鄭夫人有りてりといふ
 家より有りてり故脩と名付てり標正し前より
 わりてる中よりよき字文を以てせしとて並て入てり
 かりては稱するにふてり決てりといふ方の又
 直の人とて人となりて物をやどりて孫の絶てり半を
 けりいひぬ玉世のこれ宰相のなりてりといふ科人の書
 といひては嗚呼いふなり我々やふての早を廢らんとて
 感

わづらふ半のつづせよとてさげなまひーが乳母^{うた}を
つれてのつゝおま^{おま}をうとめて我多病^{おこゝひず}にて長生^{ながいき}をさほ
とてははる成長^{せいせい}をさうげとてういひさくさうからば共
よくま^まとてうげとて家をやめたぞーとこゝろのなまじ
どろーとつゝこれをほめてまひ^{まひ}に申すもはなれどぞ
人ごま^{ごま}をさやとて思ひてさういふなりーおつて
さうーとつげとてーは永^まねてうかーたにたひ
ようひほとめてまよ^{まよ}とて進^{すす}上^{じやう}をさやとて次^{つぎ}をさやとて
うま^{うま}にや庸^{よう}ーはよく病^{びやう}をいさめらうーは君^{きみ}運^{うん}轉^{てん}のあま
あん^{あん}く
遠^{とほ}國^{こく}よながとてふとめとてさう欲^ほうとてさうーとてトこゝに
すけりたかりとてさうのうとて忠直^{ちうちう}にて君^{きみ}と陳^{ちん}なる父^{ちち}が
おま^{おま}のあかといふとてそれをうぬい人^{ひと}やとてさうさうとてして

かゝるくたふと母云い鄭國大婦人付て所政陽信を
のふ人からうとて母云の教訓のよう一冬ふもろく
うやと後政陽を死で後くもて帝うく致るもい忠云と
溢しひるもふと唐より海こしひりも唐の韓退と
柳子厚宋の歐陽脩蘇老泉の二人文章のに大家韓柳歐蘇と
さて後世貴き一ひと

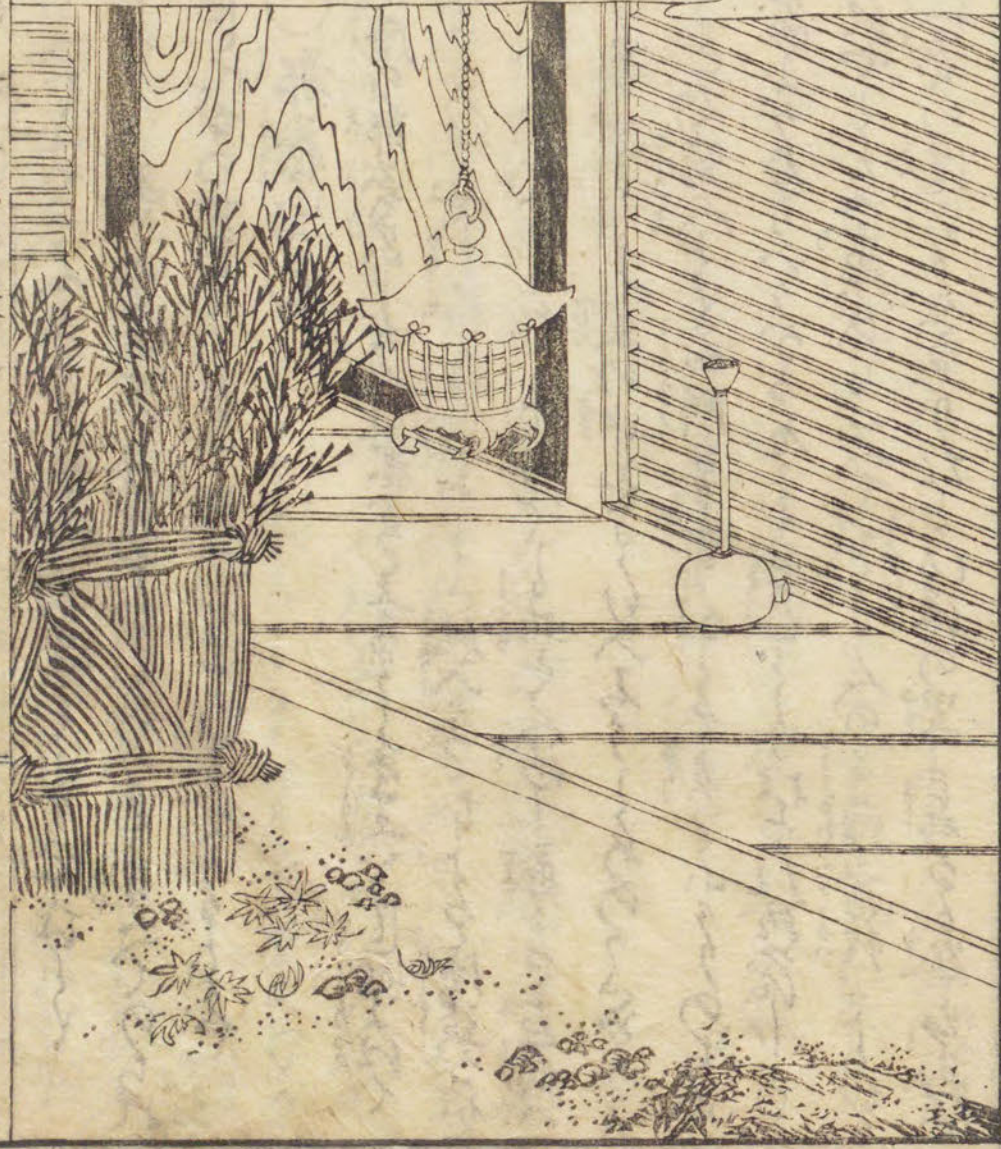
○宋就

宋就の梁の國れ縣令とて領藩楚とて國わと兩ふとも仇
と成り宋の農夫と縣令宋就があらけんとてその農耕は
けりて後より水と灌と培とを農夫よりそりも賜ふてさふ
くもて楚の農人ともこれを授ていざらむと宋國の農夫を
甲と看夜いそふ宋の知のりて此の憂とて宋の農人の農

太いことより宋就はむと所むれど宋就は農夫と
秋まゝとてうべとてむとふ夜人とてうりて楚國の知の水と
そだ培りひるもて楚の農夫のけりて宋の農夫の農氏
太りうりて水と灌と培とを農夫よりそりも賜ふてさふ
くもて楚の農人ともこれを授ていざらむと宋國の農夫を
甲と看夜いそふ宋の知のりて此の憂とて宋の農人の農

○大和の御婦

省大和の國はるる男と婦とむとてうりて楚國の知の水と
かとりてうりて水と灌と培とを農夫よりそりも賜ふてさふ
くもて楚の農人ともこれを授ていざらむと宋國の農夫を
甲と看夜いそふ宋の知のりて此の憂とて宋の農人の農



秋と藤がさそとくこのはにけのそとふそをけし
と縁ドけをまかのふまそをけふとあつてまてのれ
女といじてその妻さうかかきつてふとてふとや

○鄭義ふり妻

盧氏と唐の鄭義ふり人の妻さそ女がうそまてに嫁は
老けふとあつて後には盗賊あつて入るにふとる海盜が
家内の人を盗とりて年老てる娘を人殺しとて盧氏の
邸より女の身とて又の中をさけ入るうそあつてのうそ
居てたてど盗人どもに剛なる女うかそとて去るふとりの
人へ家より取りいふとる女うそまてに嫁は
近き所やとて盧氏とていふと人の多額高きとて
まてにその道うとるなりたては隣の里にあるを越え

とてあつてとてふたれがとてまてとてあつてあつて
とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

○賈直言の妻

りつとての賈直言の妻と董氏といふと夫の直言罷つて
南とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
ゆと年あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
なとてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
賛とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
君とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
つと君とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて



たりと後ハ嫁姑の中妻の親より云て——此嫁者婦乃
 名高けれの御うゝ家さうりふからて是令くけ中の者い
 ううなり者なりてやううは長男殿有りうううく交
 ひて書とさうや——妻もはうい孝婦の意をうねこ
 い書も——まの教とまのうゝおが姑の婦徳とふれおせし
 ちさ云葉は孝い妻よりいて衰しうては農まを孝い源守と
 して枕迄の兼注は溺る度うくと諭しうく婦を導くと云へ
 浪日國と云るうと家と情うとから家と情うと婦と看う





孟母	塞叔	清水と野守室	季向	陶淵明	陶谷子妻
十丁	十三丁	十二丁	九丁	八丁	七丁

繪本徳行談六

○女宗

宋の鮑蘇が妻ハ嫁一いふとまの鮑蘇衛と云國ハ
 國の君ハ人々セガる故卿侯ハ成ハるハ湯の
 妻と没と云妻の女宗ハをばエサと云ハ
 うひる色ハく妹ハ人々セガる故卿侯ハ成ハるハ湯の
 方ハ人々セガる故卿侯ハ成ハるハ湯の
 女宗ハをばエサと云ハ
 女宗ハをばエサと云ハ
 女宗ハをばエサと云ハ

とほくーけで床の君さうーめーなぢひ女の節依とすの
教は此婦さるさるたぬーわどと大い感ぢひ女宗と云
名を下しけいも家々標と立らせりうもふん

三



婢ちとてんく、子擲とらとわてふく、強盗とてゆふを
このふる著とて人ゆりてとて横ぜらとてのをもて
自若とてててて官候とててて父の許とてをて
是とて我のふとてての宰相の思とてりてとて流とてせり
けとて果て宰相とててて家とててててててとて
ふとてんくとて

○劉 寛

後漢の劉寛は性質慈恵ありて人ともむじとててて
そのいふとて色なりとてててて妻とてとて人なりとて劉寛
が天子とて肉とててとて教東とてててててててててて
ふとてとてとてとてとて劉寛とてとてとてとてとて
すてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

よりとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
わとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
久とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
りとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
てとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

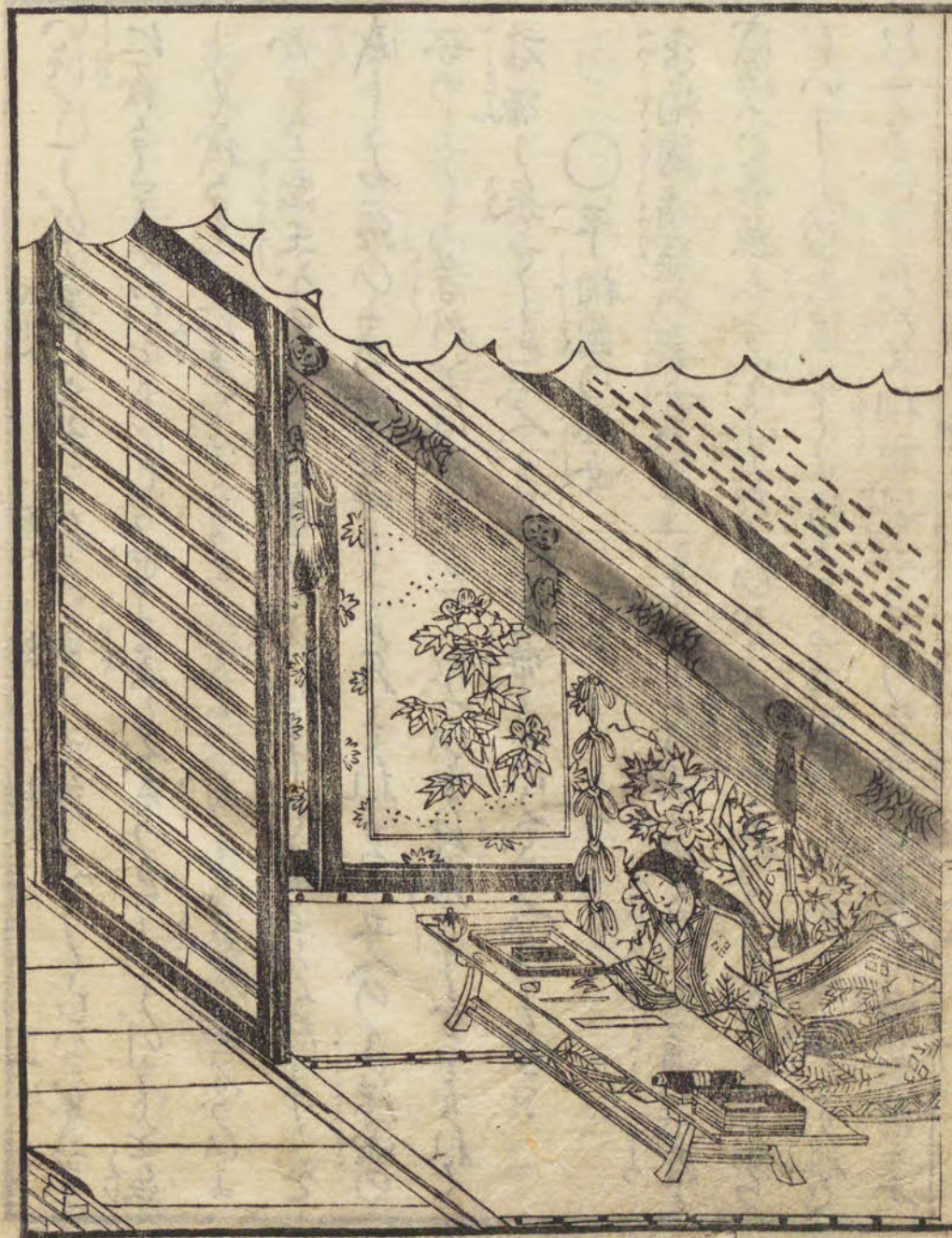
○孟 氏

魏の孟卯とて人妻とてとてとてとてとてとてとて
けとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
やとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
がとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

いほしすべし不に之かて我もとて終ふとくひに不義あり
に義あるもの何ぞのにてや世は後とてさうもいふべしとて義
とて我うんぞに義とてとせんとて去て目くは助命を給ひい
かてて國王かのふ孟氏が心の切うて道うくふひてうを
感ててせ給ひその罪とゆふとせぬとせうと五人のふ法義の
母のふくふ孝弟とてしうとてたがひるを孝子とてせられ
孝廉と譽てと八人ともふか帝ははくいとてうくうとて

平相國清盛の息女なり

○曾本德丁亥六



○ 紀元有年記

春はる日ひのの紙し

ワシの母うねわいといふうりまものころ歟とらん月歌
 是は是佛玉文

後とひはれ道のりききとめ心とをきく採入なり
ふがうそこのうれのむしやう

旅を秋要常

多し小少く白あり身とよせてう秋風と笑をうじこ
わーてふふふてまゝ
慕昔舊跡

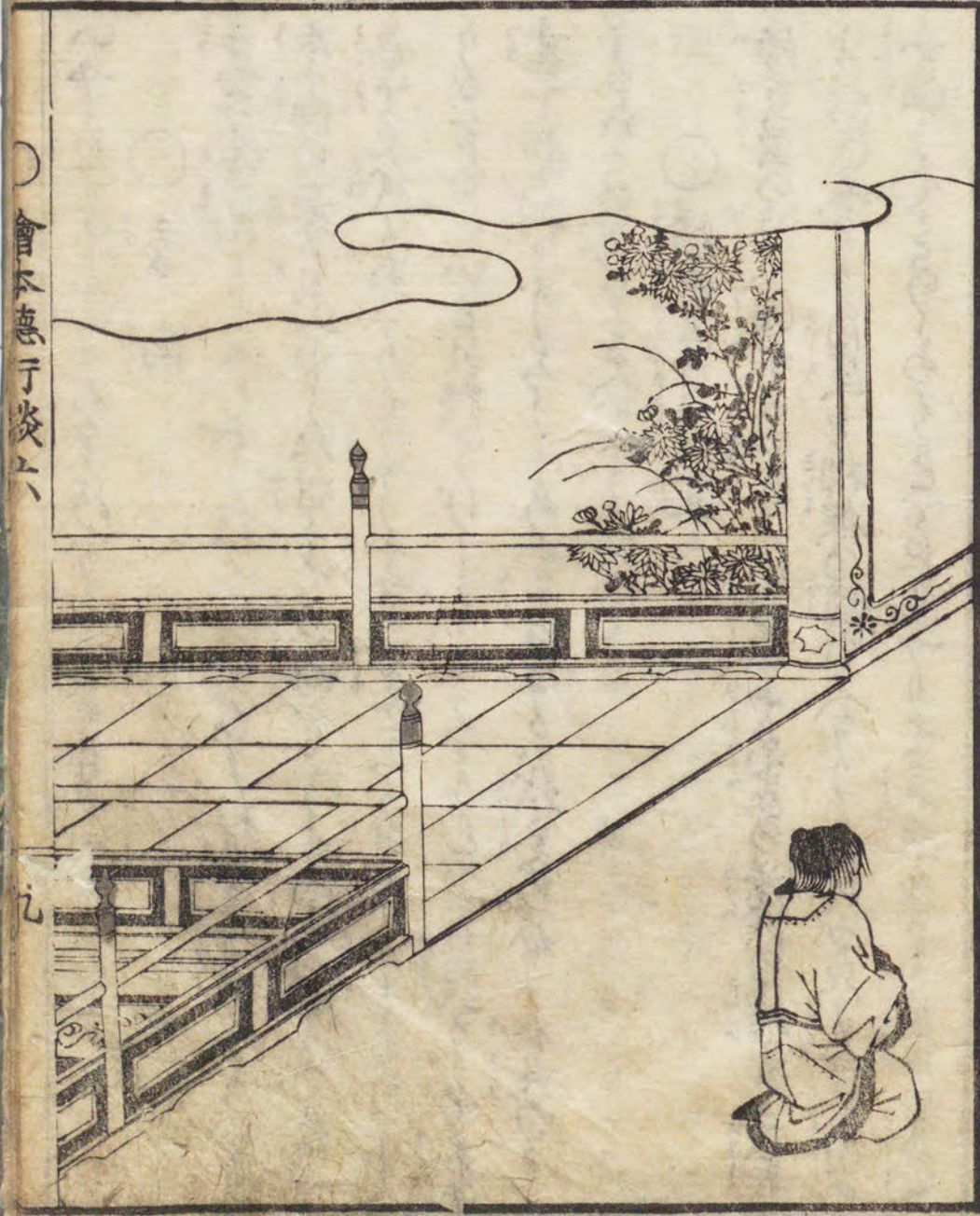
うふさ宿の新造とるんいゝむうのふさ後さ
比奈通卿の簾中へ即ゝふさ才藝とてこれとやむや相無の
女性とやど

○肉親王省智子

二品内親王有智の院、後醍醐天皇の皇女なりと云ふ。これ經典
史書に依りて、詩文よりふたり、それ為の、本院と云ふ。此
以に十三年二月、帝、本院へ行幸ありと云ふ。又文人と云ふ。
その妻の、帝の、それの、本院の、

寂々函莊（迷）樹裏
樓林孤鳥（瀟）春濤

仙輿一降一池塘
隱澗之苑見日光



いやはやくつとるをやくうとてゆり

○季向

宋の季向とて人の母をたてたひきねる者なりきなり
季向の妻もふくたけを叔母とてふくふくたれは
母はてれふりてうきふきのきをふくふくたれとてけ
くをふくふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれ
妻とてけくふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれ
よるものゝ能くをふくふくたれとてけくふくたれ

○清水と野母の室

伊豆國の住人清水と野母の小田原の家の隣りの侍とて武勇
ふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれ
女性としてふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれ

中間小者といふと恩を蒙りあぐふあぐりけるありて
の仕へるもの人の半ありて坊は道道の坂はふくたれ
儀を肩をうきふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれ
縄うきふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれ
素とてけくふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれ
ふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれ
これをとてけくふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれ
牛とてけくふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれ
は女性の強かたふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれ
その腹の胃とてけくふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれ
名とてけくふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれ
ふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれとてけくふくたれ

躰くもるありたきあては、
 七すゝゆるをうとんとし、
 事をものしむで、
 海文にぞりし、
 北はけり、
 忠な物え、
 一丈あり、
 うけとり、
 又、
 うろろと、
 ういへ、
 なほ、

けとて母夫ふいゆあていしくかほうじて一漣ふももほばく
 歌とふいゆいこれ一夫の會なりこゝふ大ねの美よりく
 うく漣とてけとてを帝后母の庭別うひて智恵の英
 雄いくれいふて

○ 山名澣真寺の室

八名法要守氏清の室ハ性氏と譯セバ
 満幸と云ふなりふと云ふ將軍家より
 丹波の國ハ落ゆれ知の城と保人
 去て然所より母といふ泉の場より
 七郎二人の法通と云ふなりと云ふ
 父のがよと云ふは余いとのびて
 戦場よりと云ふなりと云ふなり